



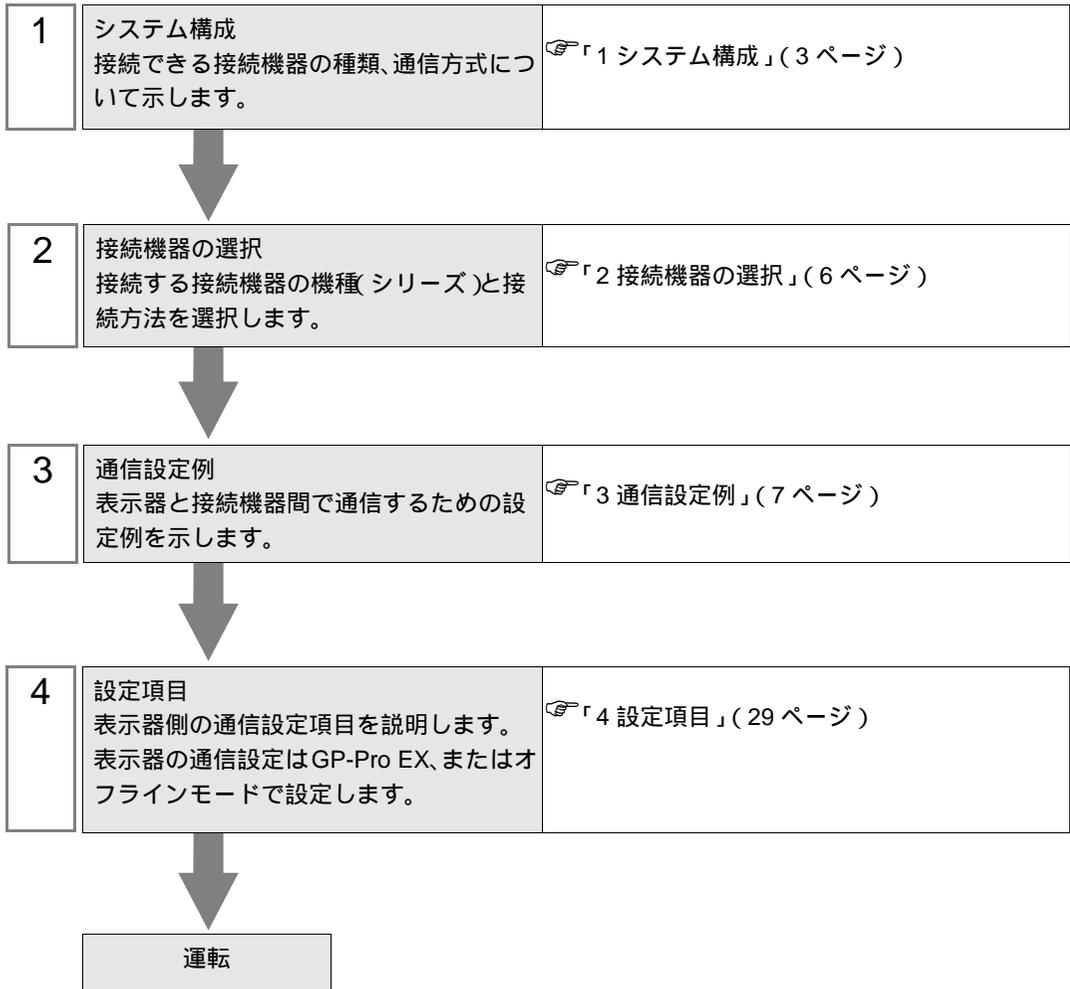
EtherNet/IP ドライバ

| | | |
|---|----------------------|----|
| 1 | システム構成..... | 3 |
| 2 | 接続機器の選択..... | 6 |
| 3 | 通信設定例..... | 7 |
| 4 | 設定項目..... | 29 |
| 5 | 使用可能デバイス..... | 33 |
| 6 | デバイスコードとアドレスコード..... | 57 |
| 7 | エラーメッセージ..... | 58 |

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

Rockwell Automation, Inc. 製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

| シリーズ名 | CPU | リンク I/F | 通信方式 | 設定例 |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|-----------------|----------------------|
| SLC500 | SLC 5/05 | CPU 直結 (channel1) ¹ | イーサネット (TCP) | 設定例 1 (7 ページ) |
| | SLC 5/03 SLC 5/04 SLC 5/05 | 1761-NET-ENI | | 設定例 2 (9 ページ) |
| PLC-5 | 右記リンク I/F を サポートするすべての CPU | 1761-NET-ENI | | 設定例 3 (11 ページ) |
| ControlLogix | 右記リンク I/F を サポートするすべての CPU | 1756-ENET/B 1756-ENET 1756-ENBT | | 設定例 4 (13 ページ) |
| | | 1761-NET-ENI | | 設定例 5 (15 ページ) |
| ControlLogix Native ² | 右記リンク I/F をサ ポートするすべての CPU | 1756-ENET/B 1756-ENET 1756-ENBT | | 設定例 9 (23 ページ) |
| | | 1761-NET-ENI ³ | | 設定例 10 (25 ページ) |
| MicroLogix | MicroLogix 1000 MicroLogix 1100 MicroLogix 1200 MicroLogix 1500 | 1761-NET-ENI | | 設定例 6 (17 ページ) |
| | MicroLogix 1100 | CPU 直結 (channel1) | | 設定例 7 (19 ページ) |
| CompactLogix | 右記リンク I/F を サポートするすべての CPU | 1761-NET-ENI | | 設定例 5 (15 ページ) |
| | 1769-L32E 1769-L35E | CPU 直結 | | 設定例 8 (21 ページ) |
| CompactLogix Native ² | 右記リンク I/F をサ ポートするすべての CPU | 1761-NET-ENI ³ | | 設定例 10 (25 ページ) |
| | 1769-L32E 1769-L35E | CPU 直結 | | 設定例 11 (27 ページ) |
| FlexLogix Native ² | 右記リンク I/F をサ ポートするすべての CPU | 1788-ENBT/A | | 設定例 9 (23 ページ) |

1 表示器の Rockwell EtherNet/IP ドライバは CIP プロトコルを使用しています。SLC 5/05 CPU の古いリビジョンではサポートしておりません。CPU のシリーズ A は OS501、FRN5 以降のファームウェアリビジョンにアップグレードしてください。CPU のシリーズ B および C は CIP プロトコルをサポートしています。

- 2 接続機器で設定した TagName をデバイス名として使用する場合に選択します。機器設定ダイアログボックスの [シリーズ] から「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択する必要があります。
- 3 ControlLogix ネイティブや CompactLogix ネイティブで 1761-NET-ENI を使用するには、モジュールをシリーズ B 以降にする必要があります。

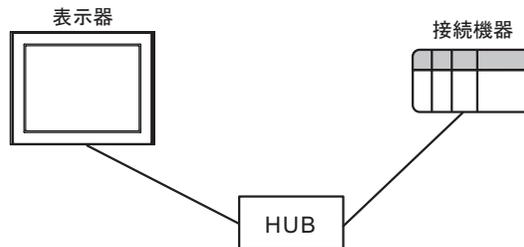
重要

- バージョン V1.12.06 以降の EtherNet/IP ドライバで作成したプロジェクトは使用したドライババージョン以降のドライバをインストールしたアプリケーション（GP-Pro EX や Pro-Server EX）で使用できます。使用したドライババージョン未満のドライバがインストールされているアプリケーションでは使用できません。
- ドライババージョンが V1.12.06 未満の場合はサポートサイト「おたすけ Pro!」から最新のドライバをダウンロードしてください。

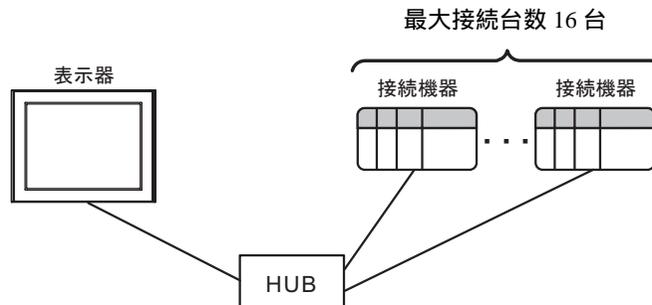
株式会社デジタル サポートサイト「おたすけ Pro!」
<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

接続構成

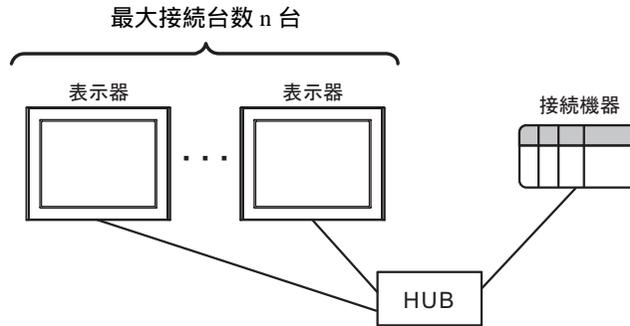
- 1:1 接続



- 1:n 接続



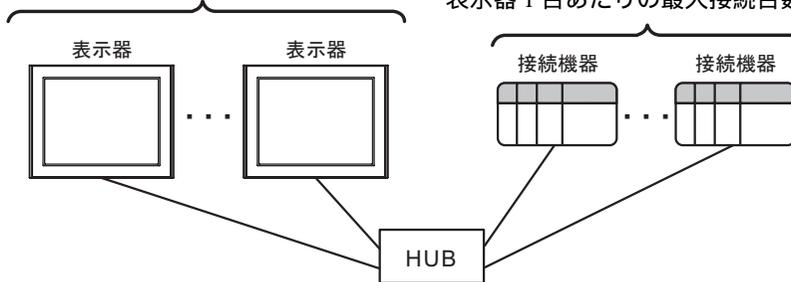
- n : 1 接続



- n : m 接続

接続機器 1 台あたりの最大接続台数 n 台

表示器 1 台あたりの最大接続台数 16 台



最大接続台数は使用するシリーズとリンク I/F によって異なります。それぞれの最大接続台数は以下の表を参照してください。

| シリーズ | リンク I/F | 最大接続台数 |
|------------------------------|--------------|--------|
| SLC500 | CPU 直結 | 8 |
| | 1761-NET-ENI | 4 |
| PLC-5 | 1761-NET-ENI | 4 |
| ControlLogix CompactLogix | イーサモジュール | 12 |
| | 1761-NET-ENI | 4 |
| FlexLogix | イーサモジュール | 12 |
| MicroLogix | CPU 直結 | 16 |
| | 1761-NET-ENI | 4 |

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



| 設定項目 | 設定内容 |
|--------------|--|
| メーカー | 接続する接続機器のメーカーを選択します。「Rockwell Automation, Inc.」を選択します。 |
| シリーズ | 接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「EtherNet/IP」を選択します。 「EtherNet/IP」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」(3 ページ) |
| システムエリアを使用する | 表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-ProEX リファレンスマニュアル「5.17.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [本体設定] の設定ガイド システムエリア設定」 参照：保守/トラブル解決ガイド「2.15.1 表示器共通」 [本体設定] の設定ガイド システムエリア設定 |
| ポート | 接続機器と接続する表示器のポートを選択します。 |

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は RSLogix500 で行います。

詳細については、RSLogix500 のマニュアルを参照してください。

1. RSLogix500 を起動し、プロジェクトの新規作成を行います。新規作成時に使用する CPU を選択します。
2. 表示された Project ツリーから [Controller]-[Channel Configuration] を選択します。
3. [Channel Configuration] を右クリックして表示されるメニューから [Open] を選択し、Channel 設定画面を表示します。
4. [Chan.1 - System] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
5. 接続機器に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.2 設定例 2

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

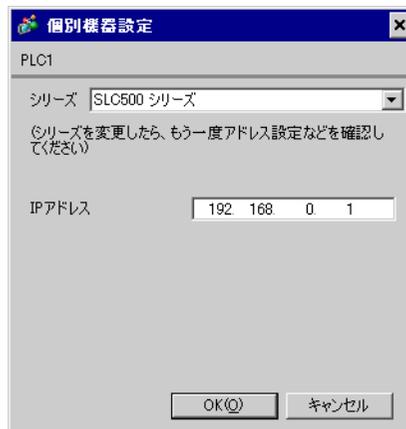


MEMO

- 1761-NET-ENI を使用する場合はタイムアウトを 6sec 以上に設定する必要があります。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は ENI/ENIW Utility で行います。

詳細については、ENI/ENIW Utility のマニュアルを参照してください。

1. ENI/ENIW Utility を起動します。
2. [ENI IP Addr] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
3. 1761-NET-ENI に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.3 設定例 3

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



MEMO • 1761-NET-ENI を使用する場合はタイムアウトを 6sec 以上に設定する必要があります。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は ENI/ENIW Utility で行います。

詳細については、ENI/ENIW Utility のマニュアルを参照してください。

1. ENI/ENIW Utility を起動します。
2. [ENI IP Addr] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
3. 1761-NET-ENI に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

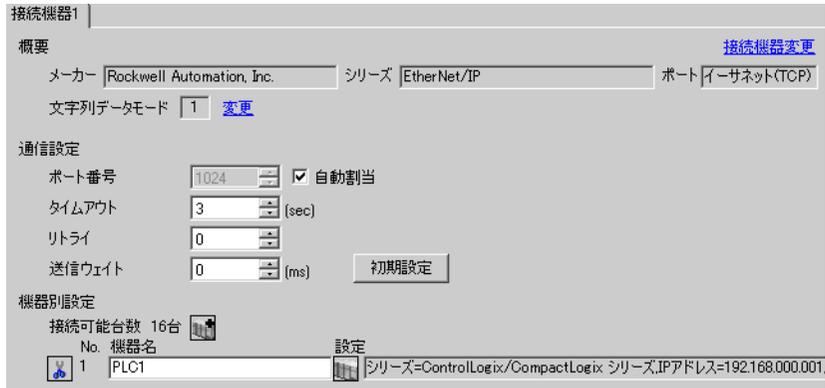
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.4 設定例 4

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は RSLogix5000 で行います。

詳細については、RSLogix5000 のマニュアルを参照してください。

1. RSLogix5000 の Project ツリーで [I/O Configuration] を右クリックして表されるメニューから [New Module] を選択します。
2. [Select Module] ダイアログボックスで使用するモジュールを選択し、[OK] をクリックします。
3. Project ツリーに追加されたモジュールを右クリックして表示されるメニューから [Properties] を選択します。
4. [General] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
5. 接続機器に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.5 設定例 5

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



MEMO

- 1761-NET-ENI を使用する場合はタイムアウトを 6sec 以上に設定する必要があります。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は ENI/ENIW Utility で行います。

詳細については、ENI/ENIW Utility のマニュアルを参照してください。

1. ENI/ENIW Utility を起動します。
2. [ENI IP Addr] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
3. 1761-NET-ENI に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.6 設定例 6

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



MEMO • 1761-NET-ENI を使用する場合はタイムアウトを 6sec 以上に設定する必要があります。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は ENI/ENIW Utility で行います。

詳細については、ENI/ENIW Utility のマニュアルを参照してください。

1. ENI/ENIW Utility を起動します。
2. [ENI IP Addr] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
3. 1761-NET-ENI に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.7 設定例 7

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の [設定] をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は RSLogix500 で行います。

詳細については、RSLogix500 のマニュアルを参照してください。

1. RSLogix500 を起動し、プロジェクトの新規作成を行います。新規作成時に使用する CPU を選択します。
2. 表示された Project ツリーから [Controller]-[Channel Configuration] を選択します。
3. [Channel Configuration] を右クリックして表示されるメニューから [Open] を選択し、Channel 設定画面を表示します。
4. [Chan.1 - System] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
5. 接続機器に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.8 設定例 8

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は RSLogix5000 で行います。

詳細については、RSLogix5000 のマニュアルを参照してください。

1. RSLogix5000 で Project を新規作成します。新規作成時に使用する CPU を選択します。
2. Project ツリーの [I/O Configuration] からイーサネットポートを選択します。
3. イーサネットポートを右クリックして表示されるメニューから [Properties] を選択します。
4. [General] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
5. 接続機器に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。
重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.9 設定例 9

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は RSLogix5000 で行います。

詳細については、RSLogix5000 のマニュアルを参照してください。

1. RSLogix5000 の Project ツリーで [I/O Configuration] を右クリックして表示されるメニューから [New Module] を選択します。
2. [Select Module] ダイアログボックスで使用するモジュールを選択し、[OK] をクリックします。
3. Project ツリーに追加されたモジュールを右クリックして表示されるメニューから [Properties] を選択します。
4. [General] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
5. 接続機器に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- 「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択した場合、タグデータを作成する必要があります。
☞ 「5.5 Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」(41 ページ)
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.10 設定例 10

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

MEMO

- 1761-NET-ENI を使用の場合はタイムアウトを 6sec 以上に設定する必要があります。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

接続機器の設定

通信設定は ENI/ENIW Utility で行います。

詳細については、ENI/ENIW Utility のマニュアルを参照してください。

1. ENI/ENIW Utility を起動します。
2. [ENI IP Addr] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
3. 1761-NET-ENI に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- 「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択した場合、タグデータを作成する必要があります。
☞ 「5.5 Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」(41 ページ)
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

3.11 設定例 11

GP-Pro EX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。



機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。



接続機器の設定

通信設定は RSLogix5000 で行います。

詳細については、RSLogix5000 のマニュアルを参照してください。

1. RSLogix5000 で Project を新規作成します。新規作成時に使用する CPU を選択します。
2. Project ツリーの [I/O Configuration] からイーサネットポートを選択します。
3. イーサネットポートを右クリックして表示されるメニューから [Properties] を選択します。
4. [General] タブで IP アドレスなどの設定を行います。
5. 接続機器に設定をダウンロードし、接続機器の電源を再投入します。

注意事項

- 「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択した場合、タグデータを作成する必要があります。
☞ 「5.5 Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」(41 ページ)
- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(7 ページ)

MEMO • 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

参照：保守 / トラブル解決ガイド「2.5 イーサネット設定」

4.1 GP-Pro EX での設定項目

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

| 設定項目 | 設定内容 |
|--------|--|
| ポート番号 | 表示器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。[自動割当] にチェックを入れた場合、ポート番号は自動で設定されます。 |
| タイムアウト | 表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。 |
| リトライ | 接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。 |
| 送信ウェイト | 表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。 |

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



個別機器設定 dialog box の詳細:

- タイトル: 個別機器設定
- PLC1
- シリーズ: Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ (プルダウンメニュー)
- 注釈: (シリーズを変更したら、もう一度アドレス設定などを確認してください)
- IPアドレス: 192 168 0 1 (テキストボックス)
- スロット番号: 0 (チェックボックスとテキストボックス)
- タグデータ: sample (プルダウンメニュー)
- ボタン: 新規インポート, 新規, 編集
- ボタン: OK(O), キャンセル

| 設定項目 | 設定内容 |
|---------|--|
| シリーズ | 接続機器の種類を選択します。 |
| IP アドレス | 接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。 |
| スロット番号 | ControlLogix および CompactLogix、FlexLogix と接続する場合は CPU ユニットが装着されているスロット番号を「0 ~ 20」で設定します。チェックを外した状態では通信できません。 |
| タグデータ | [シリーズ] で「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択した場合、接続機器にコントローラタグを定義するためのタグデータを選択します。新しいタグデータを作成する場合は [新規] をクリックします。  「5.5 Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」(41 ページ) |

4.2 オフラインモードでの設定

MEMO • オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「2.2 オフラインモードについて」

通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

| 通信設定 | 機器設定 | | | |
|-------------|--|----------|----------|------------------------|
| EtherNet/IP | | [TCP] | Page 1/1 | |
| ポート番号 | <input type="radio"/> 固定 <input checked="" type="radio"/> 自動 | 1024 ▼ ▲ | | |
| タイムアウト(s) | | 3 ▼ ▲ | | |
| リトライ | | 0 ▼ ▲ | | |
| 送信ウェイト(ms) | | 0 ▼ ▲ | | |
| 終了 | | 戻る | | 2007/07/23 11:13:09 |

| 設定項目 | 設定内容 |
|--------|--|
| ポート番号 | 表示器のポート番号を設定します。[固定] [自動] のいずれかを選択します。 [固定] を選択した場合は表示器のポート番号を「1024 ~ 65535」で入力します。 [自動] を選択した場合は入力した値に関わらず自動的に割り当てられます。 |
| タイムアウト | 表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。 |
| リトライ | 接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。 |
| 送信ウェイト | 表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。 |

機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

| 通信設定 | 機器設定 | | | |
|-------------|--|-------|----------|------------------------|
| EtherNet/IP | | [TCP] | Page 1/1 | |
| 接続機器名 | | PLC1 | | |
| シリーズ | ControlLogix Native | | | |
| IPアドレス | 192 | 168 | 0 | 1 |
| スロット番号 | <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 | | | |
| タグデータ | sample | | | |
| 終了 | | 戻る | | 2007/07/23 11:13:16 |

| 設定項目 | 設定内容 |
|---------|---|
| 接続機器名 | 機器設定を行う接続機器名を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1]) |
| シリーズ | 接続機器の種類を表示します。 |
| IP アドレス | 接続機器の IP アドレスを設定します。 MEMO ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。 |
| スロット番号 | ControlLogix および CompactLogix、FlexLogix と接続する場合は CPU ユニットが装着されているスロット番号を「0 ~ 20」で設定します。[無効]の状態では通信できません。 |
| タグデータ | 接続機器にコントローラタグを定義するために選択されたタグデータを表示します。[シリーズ]で「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」以外を選択した場合、タグデータは表示されません。 |

5 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。

5.1 SLC500 シリーズ

L/H はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | | ビットアドレス | | ワードアドレス | | 32 bit | 備考 | | |
|------------------|-----------------|--|----|--|-----|---|----|---|--|
| 入力ファイル | | I:00.000/00-I:63.255/15 | | I:00.000-163.255 | | | | | |
| 出力ファイル | | O:00.000/00-O:63.255/15 | | O:00.000-O:63.255 | | | | | |
| ステータスファイル | | S:000/00-S:163/15 | | S:000-S:163 | | | | | |
| Bit ファイル | | B003:000/00-B003:255/15 B009:000/00-B255:255/15 | | B003:000-B003:255 B009:000-B255:255 | | | | | |
| タイマ ファイル | Enable | T004:000/-T004:255/ T009:000/-T255:255/ | EN | T004:000.-T004:255. T009:000.-T255:255. | - | L/H | | | |
| | Timing | | TT | | - | | | | |
| | Done | | DN | | - | | | | |
| | Preset | | - | | PRE | | | | |
| | Accumul ated | | - | | ACC | | | | |
| カウン タファ イル | Up Enable | C005:000/-C005:255/ C009:000/-C255:255/ | CU | C005:000.-C005:255. C009:000.-C255:255. | - | | | L/H | |
| | Down Enable | | CD | | - | | | | |
| | Done | | DN | | - | | | | |
| | Overflow | | OV | | - | | | | |
| | Underflo w | | UN | | - | | | | |
| | Update Acc. | | UA | | - | | | | |
| | Preset | | - | | PRE | | | | |
| | Accumul ated | | - | | ACC | | | | |

次のページに続きます。

| デバイス | | ビットアドレス | | ワードアドレス | | 32 bit | 備考 |
|----------------|---------------|--|----|--|-------|--------------------|----|
| コントロール ファイル | Enable | R006:000/-R006:255/ R009:000/-R255:255/ | EN | R006:000.-R006:255. R009:000.-R255:255. | - | [L/H] | |
| | Enable Unload | | EU | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Empty | | EM | | - | | |
| | Error | | ER | | - | | |
| | Unload | | UL | | - | | |
| | Inhibit Comp. | | IN | | - | | |
| | Found | | FD | | - | | |
| | Length | | - | | LEN | | |
| | Position | | - | | POS | | |
| 整数ファイル | - | N007:000-N007:255 N009:000-N255:255 | | | | [Bit 15] | |
| 浮動点ファイル | - | F008:000-F008:255 F009:000-F255:255 | | - | | 32 Bit Access Only | |
| 文字列ファイル | - | ST009:000-ST255:255 | | | | 1 | |
| ASCII ファイル | - | A009:000-A255:255 | | | [L/H] | [Bit 15] | |

1 文字列ファイルデバイスはデバイスモニタに対応していません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」
- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
☞「表記のルール」

5.2 PLC-5 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | | ビットアドレス | | ワードアドレス | | 32 bit | 備考 |
|------------------|-------------|-------------------------|----|---------------------|-----|--------------|----|
| 入力ファイル | | I:000/00-I:377/17 | | I:000-I:377 | | | |
| 出力ファイル | | O:000/00-I:377/17 | | O:000-I:377 | | | |
| ステータスファイル | | S:000/00-S:163/15 | | S:000-S:163 | | | |
| Bit ファイル | | B003:000/00-B999:999/15 | | B003:000-B999:999 | | | |
| タイマ ファイル | Enable | T003:000/-T999:999/ | EN | T003:000.-T999:999. | - | | |
| | Timing | | TT | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Preset | | - | | PRE | | |
| | Accumulated | | - | | ACC | | |
| カウン タファ イル | Up Enable | C003:000/-C999:999/ | CU | C003:000.-C999:999. | - | [L/H] | |
| | Down Enable | | CD | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Overflow | | OV | | - | | |
| | Underflow | | UN | | - | | |
| | Update Acc. | | UA | | - | | |
| | Preset | | - | | PRE | | |
| | Accumulated | | - | | ACC | | |

次のページに続きます。

| デバイス | | ビットアドレス | | ワードアドレス | | 32 bit | 備考 |
|----------------|---------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------|--------------------|----|
| コントロール ファイル | Enable | R003:000/-R999:999/ | EN | R003:000.-R999:999. | - | [L/H] | |
| | Enable Unload | | EU | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Empty | | EM | | - | | |
| | Error | | ER | | - | | |
| | Unload | | UL | | - | | |
| | Inhibit Comp. | | IN | | - | | |
| | Found | | FD | | - | | |
| | Length | | - | | LEN | | |
| | Position | | - | | POS | | |
| 整数ファイル | | - | N003:000-N999:999 | | | [Bit 15] | |
| 浮動点ファイル | | - | F003:000-F999:999 | | - | 32 Bit Access Only | |
| 文字列ファイル | | - | ST003:000-ST999:999 | | | 1 | |
| ASCII ファイル | | - | A003:000-A999:999 | | [L/H] | [Bit 15] | |
| BCD ファイル | | - | D003:000-D999:999 | | | [Bit 15] | |

1 文字列ファイルデバイスはデバイスモニタに対応していません。

- MEMO**
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」
 - 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。
☞「表記のルール」

5.3 MicroLogix シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | | ビットアドレス | | ワードアドレス | | 32 bit | 備考 |
|-----------------|-----------------|--|----|--|-----|------------|----|
| 入力ファイル | | I:00.000/00-I:08.255/15 | | I:00.000-I08.255 | | | |
| 出力ファイル | | O:00.000/00-O:08.255/15 | | O:00.000-O:08.255 | | | |
| ステータスファイル | | S:000/00-S:163/15 | | S:000-S:163 | | | |
| Bit ファイル | | B003:000/00-B003:255/15 B009:000/00-B255:255/15 | | B003:000-B003:255 B009:000-B255:255 | | | |
| タイマ ファイル | Enable | T004:000/-T004:255/ T009:000/-T255:255/ | EN | T004:000.-T004:255. T009:000.-T255:255. | - | | |
| | Timing | | TT | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Preset | | - | | PRE | | |
| | Accumul ated | | - | | ACC | | |
| カウン タフ イル | Up Enable | C005:000/-C005:255/ C009:000/-C255:255/ | CU | C005:000.-C005:255. C009:000.-C255:255. | - | L/H | |
| | Down Enable | | CD | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Overflow | | OV | | - | | |
| | Underflo w | | UN | | - | | |
| | Update Acc. | | UA | | - | | |
| | Preset | | - | | PRE | | |
| | Accumul ated | | - | | ACC | | |

次のページに続きます。

| デバイス | | ビットアドレス | | ワードアドレス | | 32 bit | 備考 |
|----------------|---------------|--|----|--|-----|--------------------|----|
| コントロール ファイル | Enable | R006:000-/R006:255/ R009:000-/R255:255/ | EN | R006:000.-R006:255. R009:000.-R255:255. | - | [L/H] | |
| | Enable Unload | | EU | | - | | |
| | Done | | DN | | - | | |
| | Empty | | EM | | - | | |
| | Error | | ER | | - | | |
| | Unload | | UL | | - | | |
| | Inhibit Comp. | | IN | | - | | |
| | Found | | FD | | - | | |
| | Length | | - | | LEN | | |
| | Position | | - | | POS | | |
| 整数ファイル | - | N007:000-N007:255 N009:000-N255:255 | | | | [Bit]15 | |
| 浮動点ファイル | - | F008:000-F008:255 F009:000-F255:255 | | - | | 32 Bit Access Only | |
| 文字列ファイル | - | ST009:000-ST255:255 | | [L/H] | | 1 | |
| ロングワードファイル | - | L009:000-L255:255 | | - | | [Bit]31 | |

1 文字列ファイルデバイスはデバイスモニタに対応していません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

5.4 ControlLogix/CompactLogix シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | ビットアドレス | ワードアドレス | 32bits | 備考 |
|------|------------------------------------|---------------------------|---|--|
| BOOL | BOOL000:000/00 - BOOL999:999/31 | BOOL000:000 - BOOL999:999 | - | 1 |
| INT | - | INT000:000 - INT999:999 |  |  1 |
| REAL | - | REAL000:000 - REAL999:999 | - | 1 |
| DINT | - | DINT000:000 - DINT999:999 | - |  1 |
| SINT | - | SINT000:000 - SINT999:998 |  |   1 |

- 1 これらのアドレスにアクセスし接続機器のプログラムで使用するためには、最初に接続機器の設定が必要です。

RSLogix5000 ソフトでのデバイスの割付と GP-Pro EX でのアドレスの指定は次の手順で行います。

1) 接続機器の Tag の設定

RSLogix5000 ソフトで Tag Name を作成し、Data Type (通常は任意のレジスタ数のサイズの配列) を設定します。作成した Tag Name は File Number にマップします。

| | |
|----------|--|
| Tag Name | 任意に設定します。 |
| Type | 次の中からデータタイプを選択し、配列要素数 (Element) を設定します。 GP-Pro EX のデバイス名と合わせます。 BOOL(32bit data type) INT(word data type) DINT(dword data type) SINT(byte data type) REAL(float data type) |

設定する配列要素数は GP-Pro EX で使用する範囲を設定してください。GP-Pro EX がアクセスできる最大配列要素数は 999 です。

また、配列要素数を指定しない場合は、1 点のみ使用可能となります。

(例) Tag Name: INT8、Type: INT と設定した場合、INT8 は 1 ワードのみ使用できます。

<例 1>

| | |
|----------|-----------|
| Tag Name | Type |
| INT7 | INT[200] |
| DINT1 | DINT[100] |
| DATA2 | SINT[50] |

1 行目 : Tag Name"INT7" は INT データタイプで配列要素数 200

2 行目 : Tag Name"DINT1" は、DINT データタイプで配列要素数 100

3 行目 : Tag Name"DATA2" は、SINT データタイプで配列要素数 50

| | |
|-------------|---|
| File Number | RSLogix5000 で作成した Tag Name を任意の File Number に割り付けます。異なる Tag Name を同じ File Number で設定することはできません。 |
|-------------|---|

< 例 2 >

| File Number | Name |
|-------------|-------|
| 2 | DATA2 |
| 1 | DINT1 |
| 7 | INT7 |

2) GP-Pro EX でのアドレス指定

GP-Pro EX から接続機器のデバイスにアクセスする場合は Type、File Number および配列要素数 (Element) を指定します。



<GP-Pro EX と接続機器のアドレスマップ例 >

| GP-Pro EX の アドレス | | 接続機器の File File No.1 のメモリ |
|---------------------|---|------------------------------|
| DINT1:0 | ↔ | DINT 1[0] |
| DINT1:1 | ↔ | DINT 1[1] |
| DINT1:2 | ↔ | DINT 1[2] |

MEMO ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞ 「表記のルール」

5.5 Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | | ビットアドレス | ワードアドレス | 32bits | 備考 |
|------|------------|---|---|---|--|
| BOOL | Single Tag | <TAGNAME> | | - | 1 2 3 |
| | 1D Array | <TAGNAME>[0]- <TAGNAME>[x-1] | - | - | |
| INT | Single Tag | <TAGNAME>.00- <TAGNAME>.15 | <TAGNAME> |  | 1 2 |
| | 1D Array | <TAGNAME>[0].00- <TAGNAME>[x-1].15 | <TAGNAME>[0]- <TAGNAME>[x-1] | | |
| | 2D Array | <TAGNAME>[0,0].00- <TAGNAME>[x-1,y-1].15 | <TAGNAME>[0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1] | | |
| | 3D Array | <TAGNAME>[0,0,0].00- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1].15 | <TAGNAME>[0,0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1] | | |
| REAL | Single Tag | | <TAGNAME> | - | 1 2 |
| | 1D Array | | <TAGNAME>[0]- <TAGNAME>[x-1] | | |
| | 2D Array | | <TAGNAME>[0,0] <TAGNAME>[x-1,y-1] | | |
| | 3D Array | | <TAGNAME>[0,0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1] | | |
| DINT | Single Tag | <TAGNAME>.00- <TAGNAME>.31 | <TAGNAME> | - | 1 2 |
| | 1D Array | <TAGNAME>[0].00- <TAGNAME>[x-1].31 | <TAGNAME>[0]- <TAGNAME>[x-1] | | |
| | 2D Array | <TAGNAME>[0,0].00- <TAGNAME>[x-1,y-1].31 | <TAGNAME>[0,0] <TAGNAME>[x-1,y-1] | | |
| | 3D Array | <TAGNAME>[0,0,0].00- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1].31 | <TAGNAME>[0,0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1] | | |
| SINT | Single Tag | <TAGNAME>.0- <TAGNAME>.7 | <TAGNAME> |  |   1 2 4 |
| | 1D Array | <TAGNAME>[0].0- <TAGNAME>[x-1].7 | <TAGNAME>[0]- <TAGNAME>[x-1] | | |
| | 2D Array | <TAGNAME>[0,0].0- <TAGNAME>[x-1,y-1].7 | <TAGNAME>[0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1] | | |
| | 3D Array | <TAGNAME>[0,0,0].0- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1].7 | <TAGNAME>[0,0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1] | | |

次のページに続きます。

| デバイス | | ビットアドレス | ワードアドレス | 32bits | 備考 |
|--------|------------|---------|---|--------|-----|
| STRING | Single Tag | - | <TAGNAME> | - | 1 2 |
| | 1D Array | | <TAGNAME>[0]- <TAGNAME>[x-1] | | |
| | 2D Array | | <TAGNAME>[0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1] | | |
| | 3D Array | | <TAGNAME>[0,0,0]- <TAGNAME>[x-1,y-1,z-1] | | |

1 <TAGNAME>: 構造体の場合、構造体名を含んだ Tag Name になります。Tag Name の最大文字数はデリミタ、要素番号を含めて 255 文字です。なお、D-Script を使用する場合の最大文字数は 54 文字に制限されます。

例) BOOL タイプのシングルタグ: "BOOLTAG"
 BOOL 配列エレメント: "BOOLARRAY[0012]"
 INT タイプのシングルタグ: "INTTAG"
 DINT タイプのビットアドレス: "DINTTAG.30"
 REAL タイプの 3D 配列: "REALARRAY[1,2,3]"
 TIMER 構造からの DINT: "TIMERTAG.PRE"
 STRING 構造からの SINT: "STRINGTAG.DATA[00]"
 ユーザ定義構造からの BOOL: "USERSTRUCTURE_A.USERSTRUCTURE_B.MYTIMER.EN"

2 配列要素番号: 配列の要素数はコントローラタグ情報に含まれています。要素番号は 0 から始まるため、最大要素番号は [要素数 -1] となります。

例) INTARRAY INT[256,256] は INTARRAY[0-255,0-255] の範囲で使用可能

3 BOOL 配列: 1 次元のみ定義可能です。配列の要素数は 32 の倍数で指定することができます。

4 SINT: 接続機器では 8 ビットデバイスですが、GP-Pro EX では 16 ビットデバイスとして扱います。SINT の配列をワードとして使用する場合、要素番号は偶数のみ指定可能です。配列ではない場合や、奇数配列の最後の要素は上位バイトに 0 がセットされます。

MEMO

- コントローラタグインデックスは最大 65535 個作成できます。タグまたは配列ごとに 1 個のインデックスとなります。構造体の場合、以下の計算でコントローラタグインデックスの数を計算します。

コントローラタグインデックスの数 = (1+ メンバの数) × 配列要素数

例: Timer[16]

コントローラタグインデックスの数 = (1+9) × 16

RSLogix5000 ソフトで設定したコントローラタグを GP-Pro EX で使用するには L5K ファイルをインポートする必要があります。L5K ファイルは RSLogix5000 ソフトでエクスポートします。インポートしたデータはタグデータとして保存されます。

重要

- GP-Pro EX は RSLogix5000 ソフトバージョン 13 未満でエクスポートした L5K ファイルまたは CSV ファイルをインポートすることができません。

RSLogix5000 はコントローラスコープタグやグローバルタグに加え、PLC プログラムで作成した内の有効なプログラムスコープタグも提供します。GP-Pro EX は RSLogix5000 でエクスポートした L5K ファイルまたは CSV ファイルからプログラムスコープタグをインポートします。

以下の RSLogix5000 が提供する派生データタイプを GP-Pro EX でサポートします。

- 定義済みデータタイプ：RSLogix5000 で定義されている構造体データタイプ。RSLogix5000 のバージョン 13 および 15、16 で定義済みのデータタイプ。
(TIMER 構造体の FS および LS、OV、ER デバイスには対応していません。)
 - モジュール定義データタイプ：RSLogix5000 のプログラムで使用されている物理モジュールによって定義されるデータタイプ
(対応モジュールは「データタイプを定義するモジュール一覧」をご覧ください。)
- ☞ 「データタイプを定義するモジュール一覧」(44 ページ)
- ユーザー定義データタイプ：ユーザーが RSLogix5000 で定義するデータタイプ。定義したデータタイプは L5K ファイルにエクスポートされます。
 - エイリアス：接続機器の他のコントローラタグまたはエイリアスを参照するコントローラタグ名。

RSLogix でエクスポートしたファイルにある LINT データタイプは LINT_TC データタイプとして GP-Pro EX にインポートされます。LINT_TC データタイプは GP-Pro EX では日付と時間のメンバに分けられます。

日付または時間として GP-Pro EX で LINT データタイプを表示するには LINT_TC データタイプのサブメンバの一つとして使用します。例えば MyLINT.MONTH は LINT レジスタに月を表示します。

32 ビット整数メンバとして LINT を表示させるにはインポートした後に LINT_D データタイプというタグを使用します。

重要

- LINT_D データタイプを変更した後に再度エクスポートファイルをインポートすると LINT_D が上書きされ、LINT_TC に変更されます。

データタイプを定義するモジュール一覧

インポート時にコントローラタグやデータタイプ / 構造体を生成しないモジュール

| | | |
|-------------------------|---------------|-------------------------|
| 1756-ENET/A | 1756-L1 | 1756-L53 |
| 1756-HYD02 | 1756-EWEB/A | 1768-ENBT/A |
| 1756-L55 | 1756-L60M03SE | 1756-L61 |
| 1756-L61S | 1756-L62 | 1756-L62S |
| 1756-LSP | 1756-L63 | 1756-L64 |
| 1756-M02AE | 1756-M02AS | 1756-M03SE |
| 1756-M08SE | 1756-MO8SEG | 1756-M16SE |
| 1768-L43 | 1768-EWEB/A | 1769-L20 |
| 1769-L30 | 1769-L31 | 1769-L32E Ethernet Port |
| 1769-L32E | 1769-L35CR | 1769-L35E |
| 1769-L35E Ethernet Port | 1788-ENBT/A | 1788-EWEB/A |
| 1789-L60 | 1794-L33 | 1794-L34 |
| CompactBus | Emulator | ETHERNET-BRIDGE |

インポート時にコントローラタグやデータタイプ / 構造体を生成するモジュール

| | | |
|------------------|------------------|-----------------|
| 1734-ACNR/A | 1734-IA2/C | 1734-IB2/C |
| 1734-IB4/C | 1734-IB8/C | 1734-IE2C/C |
| 1734-IE2V/C | 1734-IJ/C | 1734-IK/C |
| 1734-IM2/C | 1734-IR2/C | 1734-IT2I/C |
| 1734-IV2/C | 1734-IV4/C | 1734-IV8/C |
| 1734-MODULE | 1734-OA2/C | 1734-OB2/C |
| 1734-OB2E/C | 1734-OB2EP/C | 1734-OB4/C |
| 1734-OB4E/C | 1734-OB8/C | 1734-OB8E/C |
| 1734-OE2C/C | 1734-OE2V/C | 1734-OV2E/C |
| 1734-OV4E/C | 1734-OV8E/C | 1734-OW2/C |
| 1734-OW4/C | 1734-OX2/C | 1734-SSI/C |
| 1734-VHSC24/C | 1734-VHSC5/C | 1738-ACNR/A |
| 1738-IA2M12AC3/A | 1738-IA2M12AC4/A | 1738-IB2M12/A |
| 1738-IB4M12/A | 1738-IB4M8/A | 1738-IB8M12/A |
| 1738-IB8M23/A | 1738-IB8M8/A | 1738-IE2CM12/A |
| 1738-IE2VM12/A | 1738-IJM23/A | 1738-IR2M12/A |
| 1738-IT2IM12/A | 1738-IV4M12/A | 1738-IV8M12/A |
| 1738-IV8M23/A | 1738-IV8M8/A | 1738-MODULE |
| 1738-OA2M12AC3/A | 1738-OB2EM12/A | 1738-OB2EPM12/A |
| 1738-OB4EM12/A | 1738-OB4EM8/A | 1738-OB8EM12/A |
| 1738-OB8EM23/A | 1738-OB8EM8/A | 1738-OE2CM12/A |

| | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1738-OE2VM12/A | 1738-OV4EM12/A | 1738-OW4M12/A |
| 1738-OW4M12AC/A | 1738-SSIM23/A | 1738-VHSC24M23/A |
| 1747-ASB | 1756-CFM/A | 1756-CN2/A |
| 1756-CN2/B | 1756-CN2R/A | 1756-CN2R/B |
| 1756-CNB/A | 1756-CNB/B | 1756-CNB/D |
| 1756-CNB/E | 1756-CNBR/A | 1756-CNBR/B |
| 1756-CNBR/D | 1756-CNBR/E | 1756-DHRIO/B |
| 1756-DHRIO/C | 1756-DHRIO/D | 1756-DMA30 |
| 1756-DMA31 | 1756-DMA50 | 1756-DMB30 |
| 1756-DMD30 | 1756-DMF30 | 1756-DNB |
| 1756-EN2F/A | 1756-EN2T/A | 1756-ENBF/A |
| 1756-ENBT/A | 1756-ENET/B | 1756-HSC |
| 1756-IA16 | 1756-IA16I | 1756-IA8D |
| 1756-IB16 | 1756-IB16D | 1756-IB16I |
| 1756-IB16ISOE | 1756-IB32 | 1756-IB32/A |
| 1756-IB32/B | 1756-IC16 | 1756-IF16 |
| 1756-IF4FXOF2F/A | 1756-IF4FXOF2F/B | 1756-IF6CIS/A |
| 1756-IF6I | 1756-IF8 | 1756-IG16/A |
| 1756-IH16I | 1756-IH16ISOE | 1756-IM16I |
| 1756-IN16 | 1756-IR6I | 1756-IT6I |
| 1756-IT6I2 | 1756-IV16/A | 1756-IV32/A |
| 1756-MODULE | 1756-OA16 | 1756-OA16I |
| 1756-OA8 | 1756-OA8D | 1756-OA8E |
| 1756-OB16D | 1756-OB16E | 1756-OB16I |
| 1756-OB16IS | 1756-OB32 | 1756-OB8 |
| 1756-OB8EI | 1756-OC8 | 1756-OF4 |
| 1756-OF6CI | 1756-OF6VI | 1756-OF8 |
| 1756-OG16/A | 1756-OH8I | 1756-ON8 |
| 1756-OV16E/A | 1756-OV32E/A | 1756-OW16I |
| 1756-OX8I | 1756-PLS/B | 1756-REG |
| 1756-SYNCH/A | 1769-HSC | 1769-HSC/A |
| 1769-IA16 | 1769-IA16/A | 1769-IA8I |
| 1769-IA8I/A | 1769-IF4/A | 1769-IF4/B |
| 1769-IF4I/A | 1769-IF4XOF2/A | 1769-IF8/A |
| 1769-IM12/A | 1769-IQ16/A | 1769-IQ16F/A |
| 1769-IQ32/A | 1769-IQ6XOW4/A | 1769-IQ6XOW4/B |
| 1769-IR6/A | 1769-IT6/A | 1769-MODULE |
| 1769-OA16/A | 1769-OA8/A | 1769-OA8/B |

| | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|
| 1769-OB16/A | 1769-OB16/B | 1769-OB16P/A |
| 1769-OB16P/B | 1769-OB32/A | 1769-OB8/A |
| 1769-OF2/A | 1769-OF2/B | 1769-OF4CI/A |
| 1769-OF4VI/A | 1769-OF8C/A | 1769-OF8V/A |
| 1769-OV16/A | 1769-OV16/B | 1769-OW16/A |
| 1769-OW8/A | 1769-OW8/B | 1769-OW8I/A |
| 1769-OW8I/B | 1769-SDN/A | 1769-SDN/B |
| 1771-ASB | 1788-EN2DN/A | 1794-ACN15/C |
| 1794-ACNR15/C | 1794-AENT/A | 1794-AENT/B |
| 1794-ASB | 1794-IA16/A | 1794-IA8/A |
| 1794-IA8I/A | 1794-IB10XOB6/A | 1794-IB16/A |
| 1794-IB16XOB16P/A | 1794-IB32/A | 1794-IB8/A |
| 1794-IB8S/A | 1794-IC16/A | 1794-ID2/B |
| 1794-IE4XOE2/B | 1794-IE8/B | 1794-IF2XOF2I/A |
| 1794-IF4I/A | 1794-IJ2/A | 1794-IM8/A |
| 1794-IP4/B | 1794-IR8/A | 1794-IRT8 |
| 1794-IRT8/A | 1794-IT8/A | 1794-IV16/A |
| 1794-OA16/A | 1794-OA8/A | 1794-OA8I/A |
| 1794-OB16/A | 1794-OB16P/A | 1794-OB32P/A |
| 1794-OB8/A | 1794-OB8EP/A | 1794-OC16/A |
| 1794-OE4/B | 1794-OF4I/A | 1794-OM8/A |
| 1794-OV16/A | 1794-OV16P/A | 1794-OW8/A |
| 1794-VHSC/A | 1797-ACNR15/C | 1797-IBN16/A |
| 1797-IE8/A | 1797-IE8NF/A | 1797-IJ2/A |
| 1797-IRT8/A | 1797-OB4D/A | 1797-OE8/A |
| 56AMXN | CIP-MODULE | ETHERNET-MODULE |
| FlexBus | FLEX-MODULE | RIO-ADAPTER |

タグデータダイアログボックスの設定項目

- コントローラタグリスト

コントローラタグリストはタグデータダイアログボックスの[編集モード]で「タグ」を選択すると表示されます。



コントローラタグとデータタイプ / 構造体を保存するタグデータブロック名を入力します。

リストに表示されるタグを絞り込みます。任意の文字列で絞り込むことができます。プルダウンメニューからデータタイプを選択することでデータタイプでの絞り込みを行うことができます。

使用する接続機器の PLC ファームウェアリビジョンを選択します。

リストに表示されるタグを絞り込みます。プルダウンメニューからスコープを選択することでスコープでの絞り込みを行うことができます。

操作ボタンです。タグの新規作成、編集、削除を行います。

[ビュー]は選択したタグの内容を表示します。

[インポート]は L5K ファイルや CSV ファイルを編集中のタグデータブロックにインポートします。

[エクスポート]はタグデータを CSV ファイルにエクスポートします。

カーソルをコントローラタグ上に移動するとデータタイプとサイズが表示されます。

タグデータに登録されているコントローラタグおよびエイリアスが表示されます。

タグデータに登録されているコントローラタグインデックスの総数を表示します。(最大 65535 個)

絞り込んだコントローラタグおよびエイリアスの総数と選択しているコントローラタグの数が表示されます。

- データタイプ / 構造体リスト

データタイプ / 構造体リストはタグデータダイアログボックスの [編集モード] で「データタイプ」を選択すると表示されます。

コントローラタグ名とデータタイプ / 構造体を保存するタグデータブロック名を入力します。

使用する接続機器の PLC ファームウェアバージョンを選択します。

リストに表示されるデータタイプ / 構造体を絞り込みます。任意の文字列で絞り込むことができます

操作ボタンです。データタイプ / 構造体の新規作成、編集、削除を行います。
 [ビュー] は選択したデータタイプ / 構造体の内容を表示します。
 [インポート] は L5K ファイルや CSV ファイルを編集中のタグデータブロックにインポートします。
 [エクスポート] は設定内容を CSV ファイルにエクスポートします。

タグデータに登録されているデータタイプや構造体が表示されます。表示色には以下の意味があります。

- 薄灰色：システムで定義しているデータタイプ / 構造体です。削除できません。
- 濃灰色：他のタグで使用されているデータタイプ / 構造体です。使用しているタグを削除した後で削除できます。
- 黒色： 削除できます。

タグデータに登録されているコントローラタグインデックスの総数を表示します。(最大 65535 個)

絞り込んだコントローラタグおよびエイリアスの総数と選択しているコントローラタグの数が表示されます。

MEMO

- インポートする L5K ファイルや CSV ファイルは [コントローラタグリスト] ダイアログボックスの [PLC バージョン] で選択したバージョンと同じバージョンにする必要があります。異なる PLC バージョンの L5K ファイルや CSV ファイルをインポートした場合は [PLC バージョン] で設定した PLC バージョンに変更されます。なお、LINT データタイプタグを含むバージョン 16 のインポートファイルを PLC バージョン 15 または 13 のタグデータブロックの中にインポートした場合、LINT データタイプ (および LINT データタイプを使用しているタグ) はインポートされません。
- エクスポートする CSV ファイルには RSLogix5000 用 CSV ファイルと Pro EX 用タグデータファイルがあります。RSLogix5000 用 CSV ファイルはタグデータブロックからコントローラタグのみをエクスポートします。必要なデータタイプを定義した RSLogix プロジェクトがある場合は RSLogix5000 にインポートすることができます。GP-Pro EX にインポートした、いずれのエイリアスもエクスポートしません。Pro EX 用タグデータファイルはデータタイプやエイリアスなどすべての情報をエクスポートします。同じドライバを設定した GP-Pro EX のプロジェクトにインポートすることで通信設定をコピーすることができます。

タグデータのインポート

- 1) RSLogix5000 ソフトで TagName を作成し、データタイプを設定します。
- 2) [File] メニューから [Save as] を選択し、コントローラタグの設定を L5K ファイルで保存します。

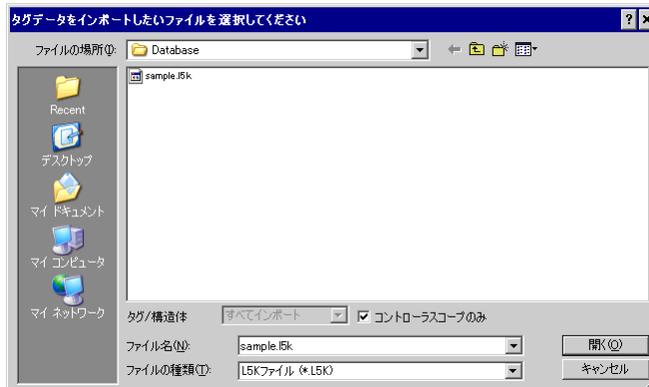
MEMO

- インポートは CSV ファイルでも可能です。CSV ファイルをエクスポートする場合は [Tools] メニューから「Export」を選択してください。
- CSV ファイルはタグ情報のみ含まれます。データタイプの情報は含まれません。

- 3) GP-Pro EX で [個別機器設定] ダイアログボックスを表示し、[シリーズ] から「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択します。



- 4) [新規インポート] をクリックします。インポートする L5K ファイルを選択し、[開く] をクリックします。



MEMO

- コントローラスコープタグのみインポートする場合は [タグ / 構造体] の「コントローラスコープのみ」にチェックを付けてください。コントローラタグとプログラムスコープタグをインポートする場合はチェックを外してください。

5) インポートが実行され、タグデータが作成されます。



MEMO

- インポート中にサポートしていないデータタイプまたはコントローラタグがあった場合、ログファイルを作成することができます。
表示されたダイアログボックスでファイル名と保存先を設定し、ログファイルを保存してください。インポート結果をログファイルで確認できます。
- GP-Pro EX でまだ定義されていないユーザー定義データタイプのコントローラタグを使用している CSV ファイルをインポートした場合、そのコントローラタグはインポートされません。ログファイルでインポートされていないコントローラタグを確認してください。

☞ 「データタイプの新規作成」(54 ページ)

- タグデータブロックは複数の接続機器に割り付けることができます。1 度作成したタグデータブロックは新しい接続機器を設定する場合に [個別機器設定] ダイアログボックスで選択することができます。なお、複数の接続機器に割り付けたタグデータブロックを編集した場合、割り付けたすべての接続機器のタグデータブロックが変更されます。タグデータブロックは必要に応じてプロジェクト内に最大 18 個まで設定できます。
- [新規インポート] をクリックした場合、接続機器に割り付けているタグデータブロックを新しくインポートするタグデータブロックに割り付けなおします。
- [個別機器設定] ダイアログボックスを閉じる際に使用していないタグデータブロックを削除できます。

タグデータダイアログボックスでのインポート

タグデータダイアログボックスでタグデータをインポートする場合、[インポート]をクリックして表示されるダイアログボックスの[タグ / 構造体]のプルダウンメニューからインポートするタグデータを絞り込むことができます。



- **すべてインポート :**
編集中のタグデータブロックにすべてのタグデータをインポートします。タグデータブロックに含まれていたタグデータは上書きされます。
- **新規だけインポート :**
編集中のタグデータブロックに含まれていないタグデータのみインポートします。
- **既存だけインポート :**
編集中のタグデータブロックに含まれるタグデータのみインポートします。タグデータは上書きされます。

タグの新規作成

- 1) GP-Pro EX で [個別機器設定] ダイアログボックスを表示し、[シリーズ] から「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択します。



- 2) [新規] をクリックします。作成するタグデータの名称を [タグデータ名] に入力し、使用する接続機器の PLC ファームウェアバージョンを [PLC バージョン] から選択します。



- 3) [編集モード] から [タグ] を選択します。
- 4) [新規] をクリックし、[コントローラタグ] ダイアログボックスを表示します。



5) コントローラタグ名、スコープ、データタイプ、配列情報を入力し、[OK] をクリックします。

MEMO • [データタイプ] で選択できるデータタイプは登録したもののみです。必要に応じてデータタイプを登録してください。

☞ 「データタイプの新規作成」(54 ページ)

作成したコントローラタグはリストに表示されます。

データタイプの新規作成

- 1) GP-Pro EX で [個別機器設定] ダイアログボックスを表示し、[シリーズ] から「Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ」を選択します。



- 2) [新規] をクリックします。作成するタグデータの名称を [タグデータ名] に入力します。



- 3) [編集モード] から [データタイプ] を選択します。



- 4) [新規]をクリックして[データタイプ編集]ダイアログボックスを表示します。



データタイプ編集

名前

メンバー

| Name | Data Type | Array |
|------|-----------|-------|
| * | | |

データ貼り付け OK キャンセル

- 5) データタイプ / 構造体の名称とそれに含まれるメンバーを入力し、[OK]をクリックします。



データタイプ編集

名前
 USERSTRUCT

メンバー

| Name | Data Type | Array |
|---------|-----------|-------|
| PARA1 | INT | 0 |
| ▶ PARA2 | STRING | 0 |
| * | | |

データ貼り付け OK キャンセル

MEMO

- RSLogix5000 ソフトウェアから [データタイプ編集] ダイアログボックスに直接構造体をコピーするには、RSLogix5000 で任意の構造体を選択し、[Name] と [Data Type] コラムをコピーします。コピーしたデータは [データ貼り付け] で GP-Pro EX の構造体に貼り付けます。
- PreDefined Structure を使用する場合、[名前] のプルダウンメニューから使用する PreDefined Structure を選択し、[OK] をクリックします。
- 構造体のメンバーに設定できる配列は 1 次元配列のみです。

作成したデータタイプ / 構造体はリストに表示されます。登録したデータタイプ / 構造体はコントローラタグのインポートや新規 / 編集時に使用できます。



MEMO

- 作成したタグデータ内に BOOL 型以外のデバイスが存在しない場合、エラーチェックで「本体設定に不正なアドレスがあります。正しいアドレスを設定してください。」の警告が出ます。

これは、[本体設定] のシステムエリアに設定する最適なデバイスアドレス (BOOL 型以外のアドレス) が、タグデータ内に存在しないために発生している警告です。

特に画面設定や本体設定に問題があるわけではありません。

- Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブで GP-Pro EX の [プロジェクト] メニューの [ユーティリティ]-[他プロジェクトからのコピー] を使用すると、コピーした画面に設定されているアドレス設定が「未定義」に変更される場合があります。画面コピー後にアドレス設定を確認してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「付録 1.4LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

6 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

- MEMO** • 接続機器のシリーズに [Control/Compact/Flex Logix シリーズネイティブ] を選択している場合、デバイスコードとアドレスコードは使用できません。

| デバイス | デバイス名 | デバイスコード (HEX) | アドレスコード |
|------------|-------|------------------|--------------------------------------|
| 整数ファイル | N | 0000 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| 浮動点ファイル | F | 0001 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| 文字列ファイル | ST | 0002 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス *0x40 |
| ASCII ファイル | A | 0003 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| BCD ファイル | D | 0004 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| ロングワードファイル | L | 0005 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| INT | INT | 0010 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| REAL | REAL | 0011 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| DINT | DINT | 0012 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| SINT | SINT | 0013 | (ファイル番号 *0x10000)+ アドレス /2 |
| 入力ファイル | I | 0080 | 0x10000+(Slot Number*0x100)+ ワードアドレス |
| 出力ファイル | O | 0081 | (スロット番号 *0x100)+ ワードアドレス |
| Bit ファイル | B | 0082 | (ファイル番号 *0x10000)+ ワードアドレス |
| ステータスファイル | S | 0083 | 0x20000 + Word Address |
| BOOL | BOOL | 0090 | (ファイル番号 *0x10000)+Word Address |
| タイマファイル | T | PRE | 0060 |
| | | ACC | 0061 |
| カウンタファイル | C | PRE | 0062 |
| | | ACC | 0063 |
| コントロールファイル | R | LEN | 0064 |
| | | POS | 0065 |

7 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

| 項目 | 内容 |
|----------|--|
| 番号 | エラー番号 |
| 機器名 | エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1]) |
| エラーメッセージ | 発生したエラーに関するメッセージを表示します。 |
| エラー発生箇所 | <p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスは「IP アドレス (10 進数): MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 デバイスアドレスは「アドレス: デバイスアドレス」のように表示されます。 受信エラーコードは「[16 進数]」のように表示されます。 |

エラーメッセージの表示例

「RHAA130:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました (Encapsulation エラーコード: [00000002H])」

- MEMO**
- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
 - ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「エラーが表示されたら(エラーコード一覧)」を参照してください。

ドライバ固有のエラーメッセージ

接続機器固有のエラーメッセージは以下のとおりです。

| コード (Hex) | エラーメッセージ | 説明 |
|-----------|---|--------------------------|
| RHxx128 | (接続機器名): 通信開始要求でエラー応答を受信しました (Encapsulation エラーコード: [(16 進数)]) | 開始要求でエラーが発生した場合に表示します。 |
| RHxx129 | (接続機器名): 読み出し要求でエラー応答を受信しました (Encapsulation エラーコード: [(16 進数)]) | 読み出し要求でエラーが発生した場合に表示します。 |
| RHxx130 | (接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました (Encapsulation エラーコード: [(16 進数)]) | 書き込み要求でエラーが発生した場合に表示します。 |
| RHxx131 | (接続機器名): 読み出し要求でエラー応答を受信しました (CIP エラーコード: [(16 進数)]) | 読み出し要求でエラーが発生した場合に表示します。 |
| RHxx132 | (接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました (CIP エラーコード: [(16 進数)]) | 書き込み要求でエラーが発生した場合に表示します。 |
| RHxx133 | (接続機器名): 読み出し要求でエラー応答を受信しました (STS レスポンス: [(16 進数)], EXT レスポンス: [(16 進数)]) | 読み出し要求でエラーが発生した場合に表示します。 |
| RHxx134 | (接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました (STS レスポンス: [(16 進数)], EXT レスポンス: [(16 進数)]) | 書き込み要求でエラーが発生した場合に表示します。 |